

1. 研究課題名：

社会・生態システムの統合化による生態系サービスの自然的・社会経済的価値の予測評価

2. 研究代表者氏名及び所属：

武内和彦

東京大学サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)・機構長・教授



3. 研究実施期間：平成 27 年度

4. 研究の趣旨・概要

我が国を中心に、長期的には同様の変化が予想されるアジア地域も視野に入れながら、生態系レベルの事象に焦点をあて、社会・生態システムの統合モデルを構築するとともに、それを用いた生態系サービスの自然的・社会経済的価値の予測評価を行い、シナリオ分析に基づく複数の政策オプションを検討し、包括的な福利(Inclusive Wellbeing)を維持・向上させる自然資本と生態系サービスの重層的ガバナンス(Multilevel Governance)のあるべき姿を提示することを目指して予備的な検討を行う。

本研究により、世界に先駆けて、効果的・効率的な生態系保全や国土利用・管理を進めるための基礎となる研究が開始され、本格的な研究課題が実施されることにより、研究成果を諸政策に適正に反映していく具体例が提示され、「生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム」(IPBES)等の国際的議論に貢献することが期待される。

5. 研究項目及び実施体制

本研究は、課題調査型研究(フィージビリティ・スタディー)であり、平成 27 年度には、基礎調査及び国際動向を整理するとともに、研究実施に向けた手法等の検討を行い、関連分野の研究者の学際的な研究体制及び体系的な研究計画を立案する。その際、IPBES の分析概念枠組みや将来シナリオに関する議論を踏まえつつ、我が国における人口動態や土地利用の変化等を踏まえた生態系サービスの自然的・社会経済的価値の予測評価を行うための手法を検討し、そのアジア地域への適用可能性についても検討する。具体的には以下の 4 つのサブテーマを設定して研究を進める。

サブテーマ 1 (東京大学)：社会・生態システムの統合モデルの構築と包括的な福利の追究

サブテーマ 2 (東北大学)：陸域における生態系サービスがもたらす自然的価値の予測評価

サブテーマ 3 (海洋研究開発機構)：海域における生態系サービスがもたらす自然的

価値の予測評価

サブテーマ4（京都大学）：生態系サービスの社会経済的価値の予測評価と自然資本の重層的ガバナンス

6. 研究のイメージ

